

あろま

2010.11.30.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

11月例会 跳び箱(1年)の実践報告 &ハンドボールの授業案づくり

10月13日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック11月例会が開催されました。この日は8人の方が参加され、前回授業案を検討した1年生の跳び箱の実践報告と、ハンドボール(高学年)授業案についての検討がされました。例会は5時間にもおよび、「頭の中がぱんぱん」になるほどの充実した例会になりました。

跳び箱(1年)の実践報告

前回の例会で検討した跳び箱の授業案をもとに、授業実践をしました。10月27日(水)には、校内研の研究授業を行い、無事終わることができました。その報告をしてくれました。

跳び箱が大好きになった子どもたち

「子どもたちに『楽しい』と言われたのが、うれしかった。」それが、報告の第一声でした。時間割に「たいいく」と書いてあると、もう跳び箱の授業は終わったのに、子どもたちは「先生、跳び箱やるの?」と目を輝かせながらきいてくるという、それくらいに跳び箱の授業は楽しいものだったようです。

日記の中に「『ちゃんとび』がんばっています。」と書いてきた子もいるように、ひとりひとりの跳び方に名前をつけたこともよかったようです。また、グループで代表を決めて、みんなの前で跳ぶようにさせたことも、友だちのよいところを見つけたり、跳んだ子に自信をつけさせたりする上でよかったようです。

「友だちにいいところを見つけてもらえた人?」という問いかけにはあまり手が挙がらなかったものの、「友だちのいいところを見つけられた人?」との問いかけには、大勢の子どもの手が挙がったということでした。

子どもたちの「声」を生かすために

研究授業のときに、唯一うまくいかなかったというのが「ほめほめカード」でした。友だちのよいところを見つけて書き入れるものですが、それまでの授業では使っていなかったので、書かせるのに時間がかかってしまったのです。また、それまでの授業では、先生自身が子どもたちのよいところを見つけてほめてあげていたのですが、「ほめほめカード」の書き方の説明に回っていて、肝心な子どもたちをほめるということができなかつたと、悔しそうに話していました。

例会では、子どもたちに書かせるのではなく、子どもたちの言ったことを教師がどんどん黒板に書いていく方がよいのではないかという話が出ました。それを教師がまとめたり、分類したり

して、「これと同じ人、手を挙げて。」「みんなで学習して、こんなことがわかったね。」と、みんなで共感できるようにすることもできる、と話されました。

「絵カード」で、見るポイントがわかった

前回の例会の後、借りていった「人体模型」(体の動きがわかるように関節などのところで手、足、胴体、首が曲がるようにして作った人形)をもとに、跳び箱の動きがわかる「絵カード」を作ったのだそうです。それによって友だちの動きを見るポイントがわかって、「すごい、腰が上がっている！」などと、子どもたちがいいところをどんどん言っていくという場面が見られたということでした。

同じ学年の先生が授業を見に行ったときに、友だちの動きを見合う位置をきちんと決めてなかったのが、いろいろな位置で見る観点を決めてどうだったかと言ってあげる役割を、ローテーションでできるようにしたということでした。

また、「トン パツ トン」のリズムを子どもたちが言い合って、リズムを意識してできるようにはたらきかけたようでした。子どもたちは、特に「トン」の踏み切りをしっかりと意識してできるようになったということでした。学年の協力が授業を支えました。

残された課題は...

「先生がみんなを絶対に跳べるようにします！」と宣言して始まった跳び箱の授業でしたが、最後まで跳べなかった子が2人(30人中)いました。先生にとっても、それが心残りです。

また、授業前と授業後のアンケートのちがいはこのようになりました。

アンケートの質問項目	7月	10月28日
1. 体育は好きですか。	× 11人	× 3人
2. とび箱は好きですか。	× 10人	× 3人
3. 友だちといっしょに学習するのは楽しいですか。	× 12人	× 4人

3つの質問とも、「きれい」と答えた3人は同じで、7月のときにも「きれい」と答えています。質問3のもう一人は、理由として「順番を待ちたくない。」と答えていて、順番なんか待ってられない、早くやりたくてしかたがないというようすが浮かんできます。マットに寝そべて、みんなのジャマをしていたりする子なのだそうです。

また、「きれい」と答えた3人は、いずれも跳び箱が跳べるようになった子です。休み時間も外に遊びには行かない、運動があまり好きではない子たちのようです。

この跳べなかった子のことをどう考え、これからどう取り組むのか、跳べるようになったのに相変わらず「きれい」と思っている子を、これからどう変えていくのか、このことは、だれもが抱える課題のようです。

実践報告の書き方

この跳び箱の実践は、来年の体育同志会の全国大会の器械運動分科会で報告されますが、その実践報告をどのように書くかについても、話が出されました。

「何をうったえるか」「何を実践報告の中心にするか」を軸に考えること。授業で、体育や跳び箱がきれいな子を変えていったこと、みんなで用意し、みんなで観察し合い、学習集団としてひとつの世界をつくっていったことを書くこと。みんながどのようにうまくなるすじ道を手に入れていったのか、また具体的にどのような場面でうまくなったのか、ということを書くこと。グループ学習を進める中で、どういうことがある中でグループ学習の大事さがわかったのかを書くこと。跳べなかった子、きれいなままの3人の分析。そして何よりも教師の思い。

そんなことを実践報告に書いていったらよいのではないかと話されました

球技の授業づくり

市内の小学校の校内研に講師としていくときの資料も使いながら、「球技の授業づくり」について話されました。

課題解決型の球技は、「作戦作り発展と練習の系統性」の系と「ゲームの発展」の系を、課題の分析と課題の解決の学習過程を螺旋状に上っていく授業構造をもっていること。

課題の分析には次の4つの視点があること。

その運動文化のおもしろさがあり、みんなでうまくなることに向かって安全で、フェアで、楽しめるルールづくり

「ひとりひとり」と「みんな」がうまくなる技術（コンビネーションからの得点ができる技術）

チームづくりを基本に学級全体がスポーツ集団としての自治と共同に向かうこと
自分たちで球技大会を運営したり、学習条件を自分たちで整えたりする力。

また、「わかる・できる」「伝え合い」の見方・考え方についても話されました。運動学習における「認知 - 制御」は「できる」と捉えること、「わかる」は運動の法則性や概念を手に入れ、それを意識的に適用すること、「伝え合い」は国民みんなの運動文化として共有すること、気持ちや内容や方法を伝え合うための言語化が共有のための武器になる、などの話でした。

ハンドボールの授業案

考えてきたハンドボールの指導計画をもとに話し合いました。5・6年生合わせて21人のハンドボールの授業です。前回、前々回とハンドボールについての提案がされましたが、ほとんどその内容に沿ったものです。2人の攻め、3人の攻めで、どのようなコンビネーションプレーをすればシュートできるかをグループで話し合い、練習で動きを確かめる。ゲームで試してみても分析をし、課題を把握し、課題解決のために取り組む。そんな感じの授業です。校内研の授業にもなっています。

最初に考えた攻めがうまくいかなかったときに、次にどう動いたらよいかも考えて練習を積むことの大切さなどの指摘がありました。

参加された方の感想から

先月、みなさんに教えてもらったとび箱を実際にやってみた。とび箱を好きになった児童が増え、とても参考になった。「どうすればよりよくできるのか」をいつも考えることが、とても大切であると改めて感じた。これからがんばりたい。

実践の書き方も今日教えてもらったので、それをもとにして作りなおします。

ハンドボールの動き方は複雑であるが、だからこそ教具が必要であることもわかった。

(Aさん)

今日も頭を使い、元気になります。研究会は楽しいの一言です。ほんとうに楽しいです

(Bさん)

跳び箱の実践報告を聞きました。子どもたちが何とか跳び箱が好きになるようにという思いが伝わってきました。「たいいく」と黒板に書けば、「跳び箱やるの」と子どもたちが目を輝かせるくらいに跳び箱が好きななったことがすばらしい。これを全国大会に向けてどうまとめるかも楽しみです。

球技の授業づくりについてもよくわかりました。

みなさんの話で、ハンドボールの授業をやっていく目途が立ちました。子どもたちにコンビネーションの原則を教えることの大切さもわかりました。

(Cさん)

充実したサークルでした。

本質的なことを理解するには時間がかかるとは思いますが、考えることは嫌いではないので楽しかったです。

自分のクラスに持ち帰ってどう実践するか、楽しみなような大変なような、でも楽しみなような…。生かしていきたいと思います。

同志会に肺って20年近く、最近になってやっとわかってきたことがあるような気がします。(まだまだわからないこと、実践できていないことは、たくさんあるのですが)

跳び箱の報告も、初々しくてよかったです。

(Eさん)

今日もまた充実しすぎて頭の中がパンパンです。球技は難しい。

しかし、作ってきたグッズ(人形)が素晴らしく、目で見てよくわかりました。1年生にとってこうしたものが特に必要。

この授業を受けて、とび箱の実践。そしてここで勉強したことをうけてボール運動の実践を考えていかななくてはいけない…。がんばりま〜す。

(Dさん)

跳び箱の実践報告

先生になって1年半で熱い思いとしっかりとした実践・実践報告ができて、すごいと思いました。子どもたちが「またとび箱やるの?」「とび箱やりたい!」と思うくらいにまで成長させられて、すばらしいと思います。また、「できる」ということも体感させられているので、すごいと思います・

ハンドボールの指導案
ハンドボールの2:0, 3:0でも、教えるべき内容・中身を、こちらがしっかりと把握し、まとめることが必要だと思いました。また、具体的に対象に働きかけ(操作し)、イメージ作りをすることも大切だと思いました。

(Fさん)

1. 跳び箱実践報告

「たのスポ」原稿、大会提案になる実践報告でした。子どもたちが跳び箱ぎらいから跳び箱大好きになる変容過程を、教師の想いととも報告できるといいと思いました。

原稿として整理することで更に実践力も高まると期待します。

2. ハンドボールプランについて

認識内容の整理。

現象 - 実態 - 本質

プレイ 法則

の関係でプランができていることがわかった。

実践 報告が楽しみです。

(Gさん)

西多摩ブロック 12月例会のご案内!

日時: 12月18日(土) 午後1時~

場所: あきる野市立屋城小学校

TEL: 042-558 1129 (渡辺)

シュートボール(低学年)の授業案づくり

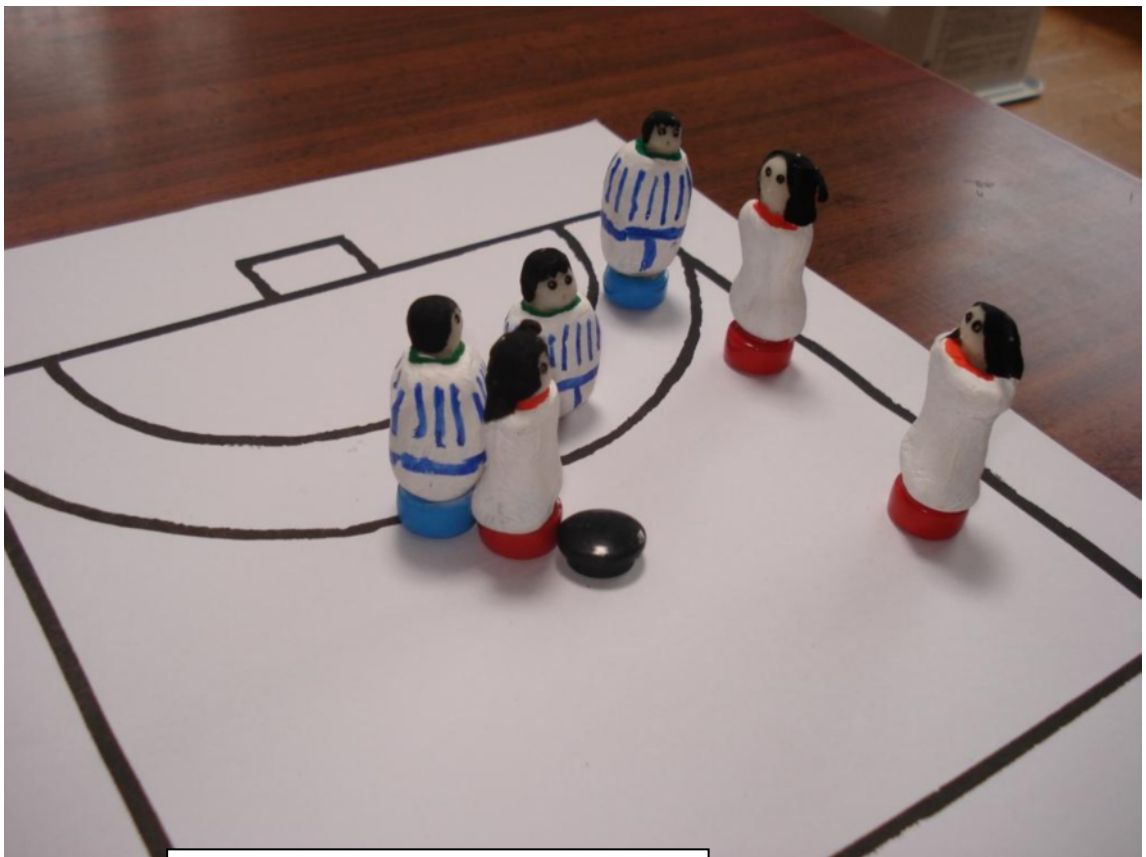
ボールは友だち!でも、持ったり、投げたりが、まだまだならない低学年。そこに、チームでゲームづくりとなると、これはさらに大変! ゲームを楽しめるまでには、どんな学び合いが必要でしょうか。

ボール感覚、操作技術、仲間とのつながり合い。

低中高学年を通したボール運動の学習の柱を立て。

シュートゲームの指導案づくりです。

学期末の忙しい時ですが、3学期のボール学習に向けて、課題立てを!



コンビネーションを考えるための教具